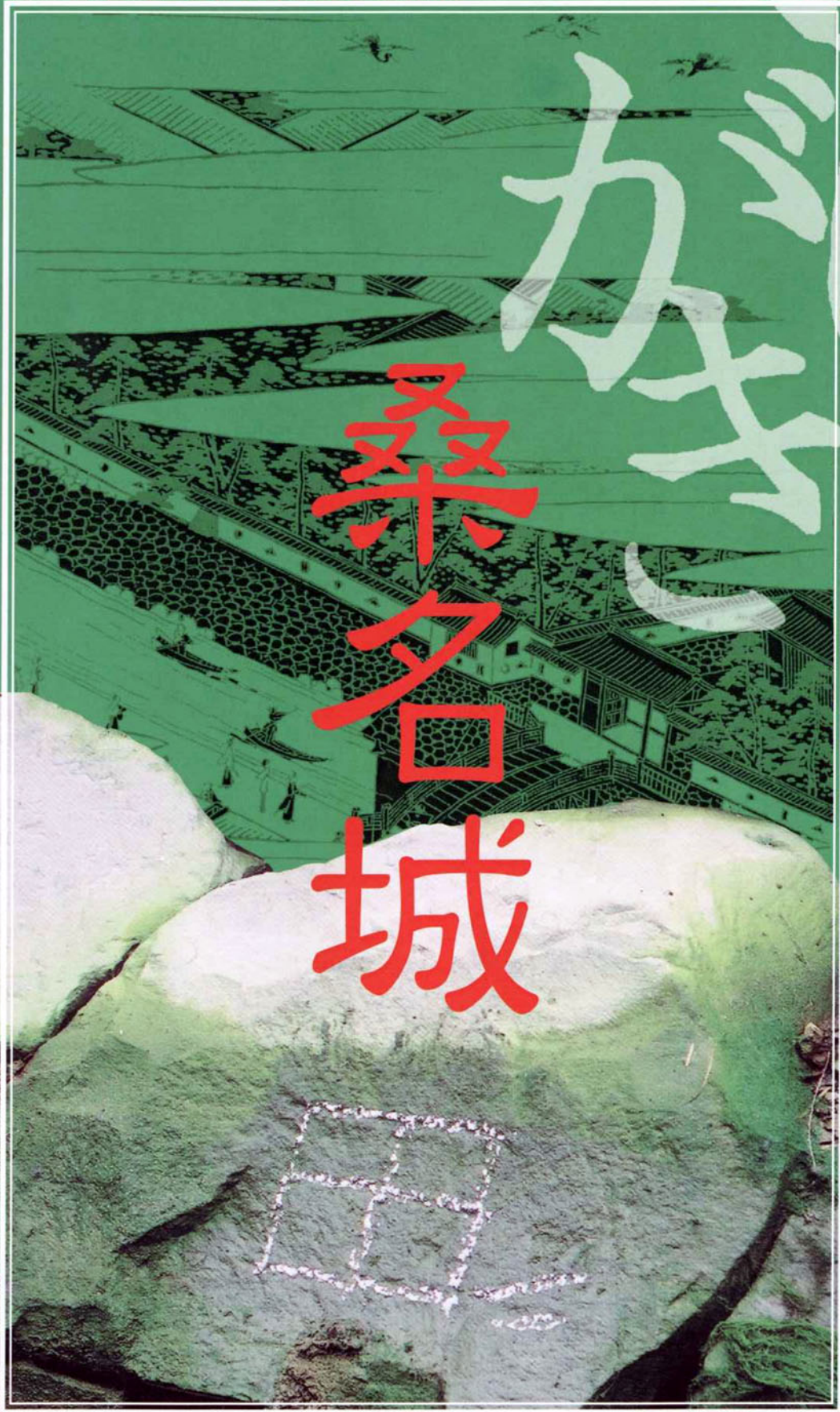
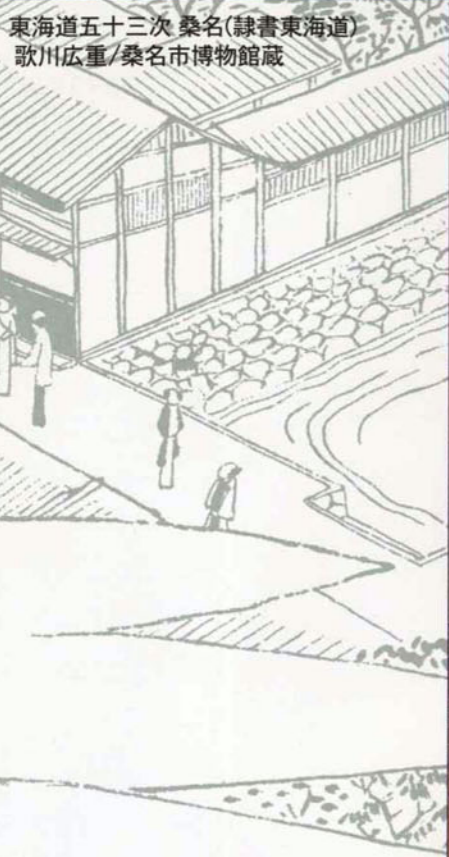


The KUWANA Castle ruins





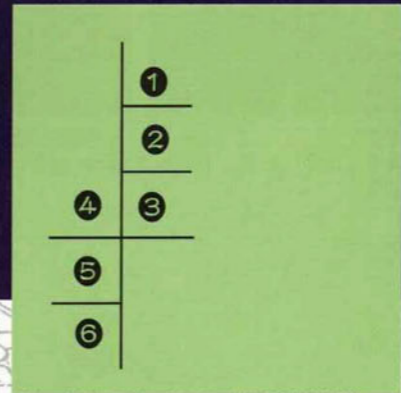
東海道五十三次 桑名(録書東海道)  
歌川広重/桑名市博物館蔵



勢州桑名城中之絵図/正保年間

# 桑名城

## 城の面影



- ① 三之丸堀
- ② 三之丸堀出隅
- ③ 吉之丸堀と櫓跡
- ④ 東海道五十三次桑名(保永堂版)  
歌川広重/桑名市博物館蔵
- ⑤ 九華公園内に移築された吉津屋御門及び川口付近の石垣
- ⑥ 二之丸堀

桑名城跡については、明治時代以降、多くの改編や堀の埋め立て、石垣として使われた石材の搬出・転用により、往時の姿のほとんどをなくしているのが現状です。

出入口を守る虎口や櫓門、天守はもちろん、「守り」の要である櫓や堀もほとんどを失っています。現在も残る堀は、堀水が浅く、石垣も積み直され小さくなっています。

今回、江戸時代初期、徳川四天王のひとり、本多忠勝が10年間を要して築城したと伝えられる城跡の痕跡を、またその手掛かりを調べるため、最も良好に残る石垣の一部の根石(基礎部分)を調査したところ、地下5mにわたり、今の石垣とは大きく様相が異なる大石使用で急勾配の石垣を確認しました。高さは8mにも及び、現在見える3m内外のものとは大きくその景観が変わることが判明しました。

往時はその石垣に塀や櫓が回り、雄大な構えを持っていたことをうかがわせ、また三之丸の石垣以上に二之丸、本丸の石垣はその規模を大きくしていたことを想像させるものであります。

今回の調査により、広範囲において地下深くに往時の城の痕跡をのこしていることがわかりました。

「桑名」の名称の由来は諸説ありますが、古代この地方を支配していたと伝えられる「桑名首」の名前から、あるいは「桑の木が多く植えてあった所」の意味などが有力な説のようです。戦国時代、現在の桑名市域には40近い数の砦がありましたが、織田信長によって平定されたのち、信長の家臣滝川一益の支配を受けました。桑名に初めて天守が築かれたのは文禄4年(1595)、一柳右近により伊勢神戸城の天守閣が移築されたと言われています。その後徳川家康は関ヶ原の戦いの翌年、慶長6年(1601)に本多忠勝を桑名に封じました。忠勝は、周囲の城を取り壊し、この地に初めて近世城郭を築きました。同時に城下の町割りも行っており、武士・商工業者の居住区を区分した市街地を形成し、大山田川、町屋川の流れを変えて外堀に利用したと言われています。元和3年(1617)、松平定綱の時、ほぼ城下は完成し、「海道名城」とうたわれるようになりました。しかし元禄14年(1701)の大火で城郭の多くの部分が焼失し、これ以後天守閣は再建されていません。

# これからの桑名城

江戸時代に築城された桑名城は、近世の日本文化を代表する貴重な文化遺産であり、この城郭遺構については後世に大切に継承し保存していかなければなりません。しかし桑名城跡を単に物理的に保護・保存するだけでなく、人々の憩いの場、また歴史的理解を深める場としていくことも目指しています。また、桑名城の特徴でもある堀割りについては、江戸期を通じて極端な変遷を経ないこともあり、今後のさらなる史料調査及び発掘調査を進め、往時の景観の再現に積極的に取り組んでいます。



七里の渡に面して建てられていた蟠龍櫓の外観を再現し、水門管理所として利用しています。



川口～南大手までの約500mにわたる東岸の石垣は江戸時代の桑名城の姿を残す唯一の資料で、昭和40年7月23日に桑名市の指定史跡となっています。



試掘調査箇所  
石垣の痕跡が良好に残ると思われる入隅部分について調査しました。

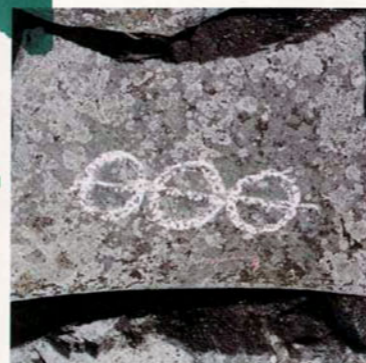
大鏡院様時代桑名郭内地図 (寛文3年)

今回、発見された石垣の一部は、大規模な石垣普請(工事)による江戸時代初期のものであり、城の主要部分である本丸や二之丸の石垣はさらに大規模な石使用と石垣であったことがわかった。しかし、往時は河口に流れる水や泥、潮の満ち引きなど、その普請の大きな障害になっていたことは明らかで、あえてこの場所に城を構えようとした意志に驚嘆せざるを得ません。石垣の築造だけでも、石の切り出しや土の運搬、石積をする石工や裏土を盛る土工、それをまかなう人々(手間・まかない)の数は、現在ではとても想像できない人数であり、また当時の技術や経験は、現在までほとんど伝わっていません。

# 発見



「久波奈名所図会」より南大手門部分 享和2年(1797)/魯稿庵義道



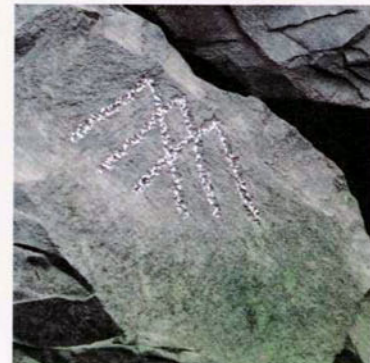
《だんご》をかたどった刻印



入隅掘削の様子  
根石の確認調査を実施した際、下方へ続く石垣を発見



石垣調査の様子  
堀水をせきとめ堀底の土を掘削しました



《山》をかたどった刻印



刻印は  
石材を扱う組内や所属する地域  
を示していると思われます

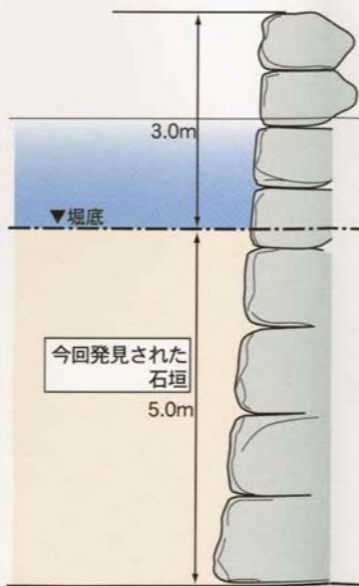


明治時代の三之丸堀の様子

## 堀底へつづく石垣



平成15年3月に実施された三之丸堀石垣調査の様子



### 刻印

三之丸堀の今回の調査箇所においても、多くの積石にノミで印した刻印を発見しました。全国的にもこれほど多くの刻印が見つかることはめずらしいことです。刻印は築城の際、石材を搬入・加工する組内や所属の印とも言われ、多くの人々がかかわったことをうかがわせるものです。

### 絵図・史料

桑名城には、現在多くの絵図や関連する史料がありますが、全国に散在する絵図もあり、全国の有名城郭と同様、絵図史料の集積・分析が求められるところです。

### 桑名城の石材

三之丸堀の石垣に使用されている石材は、泥岩が多く、それを割り込んで積石材として利用しています。しかし現在、この近辺に大量に泥岩が産出する場所はなく、石材の搬入場所はいまだ不明です。

### 石垣の構造とその謎

今回調査した三之丸堀の石垣は、8m内外の規模を持つ石と土で築いた《空石積》の石垣であり、本丸、二之丸においてはそれ以上であることをうかがわせます。またこの地は河口であり潮の干満も大きく、当時どのような設計でなされたのかは現在も多くの謎をもっています。

## ACCESS

■JR・近鉄桑名駅から  
徒歩15分

■東名阪自動車道  
桑名ICから 車で約15分

## INFORMATION

桑名市教育委員会

〒511-8601 三重県桑名市  
中央町二丁目37番地  
TEL 0594-24-1361  
FAX 0594-27-3272

e-mail:  
bunkam@city.kuwana.mie.jp



## ACCESS MAP

### ATTENTION !

私たちの文化財を守るためには、市民の皆様のご協力が必要です。石垣にロープをかける等の行為は文化財を壊す原因となります。この石垣を皆様で大切に守っていきましょう。